

氏名	浅 野 一 幸
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 4 2 1 号
学位授与の日付	昭和45年 3 月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	異種ならびに腫瘍細胞のリンパ節内接種に関する研究 第1編：輸入リンパ管からウサギの膝窩リンパ節内に注 入したニワトリ赤血球の運命 第2編：輸入リンパ管からウサギの膝窩リンパ節内に接 種したBrown-Pearce癌細胞の増殖 第3編：Brown-Pearce癌細胞のウサギ膝窩リンパ節の 輸入リンパ管内注入と輸出リンパ管内注入の場 における癌のひろがりの比較
論文審査委員	教授 妹尾左知丸 教授 小川 勝 士 教授 大 内 弘

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

本研究は、異種ならびに腫瘍細胞をウサギの膝窩リンパ節内に輸入リンパ管を介して注入し、その運命を追求したものである。

異種細胞としては、ニワトリ赤血球を、腫瘍細胞としてはウサギに移植可能なBrown-Pearce癌細胞を用いた。ニワトリ赤血球を直接にリンパ管内に注入すると、皮質や髄質のリンパ洞内にヒマン性に拡散するが、時間の経過とともに細網細胞に捕食され、胞体内で消化されて、注入後6～12時間後には見えなくなる。これに対して、リンパ管内に注入されたBrown-Pearce癌細胞は、一部は死滅するらしいが一部はすみやかに増殖して、7～14日でリンパ節は癌化する。しかし、あらかじめ癌細胞で感作したウサギのリンパ節では、癌細胞を注入しても癌化はおこらない。

癌細胞により膝窩リンパ節の輸出リンパ管を介して骨盤腔内の腸骨リンパ節を癌化すると、癌のひろがりが輸入リンパ管内注入の場合よりやや早くなる。

(昭和44年12月 岡山医学会雑誌 第81巻11, 12号に掲載予定)

論文審査の結果の要旨

本研究は、家兎の膝窩淋巴腺の輸入管及び輸出管からニワトリ赤血球あるいはBrown Pearce 腫瘍細胞を注入して細胞の処理過程を観察し、正常個体では赤血球は破壊されるが、腫瘍細胞は増殖するに反し、免疫個体では赤血球の破壊が著しく早くなるとともに腫瘍細胞も破壊吸収されてしまうことを明らかにしたものであり、価値ある業績であると認める。

よって本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。